Education first !!

久留米大学医学部 医学教育研究センター

Center for the Study of Medical Education (CSME)

久留米大学医学部医学教育研究センター　ニュースレター　第五号　　2015 年 10月号

でてこんの！（医学図書館より）

平成２７年１０月５日（月）より１０月９日（金）まで、医学図書館にて、『でてこんの！！学びワールド　－次世代の学び、ミーティングを体験してみませんか－　』を開催いたします。60型のBigPad、アクティブラーニング用イス、テーブル、ホワイトボード他を展示しております。その他、ラーニングコモンズ紹介PVコーナー 、MOOC、JMOOC紹介コーナー 、無線LAN付液晶プロジェクター紹介コーナー も設置しております。是非足をお運びください。

医学教育研究センターを楽しむためのヒント

まずは、医学教育研究センターについて知ろう！（その5）

Q: 医学教育研究センターの「最近のどうでも良いこと」は何ですか？

A: 電気ポットが若干ですが綺麗になったんです。

Q: 医学教育研究センターのひみつを教えてください？

A: 公に教えたらひみつではなくなってしまいますのでこっそり教えます[有償]。

医学教育研究センターは教育一号館の６階にあります（旧医学教育学）。大学生活に関すること、学業に関すること、留学やボランティア、部活に関すること。大学に関する悩みがあれば、どんなことでも相談に乗ります。いつでもお越しください。「手薬煉を引いて」お待ちしています。

- スタッフ一同

こどもクリニックでの実習（今月の学生の声より）

今号の特集

- 医学図書館の企画紹介
- 今月の学生の声（１）
- 今月の学生の声（２）
- 今月の医学時事

今月の学生の声

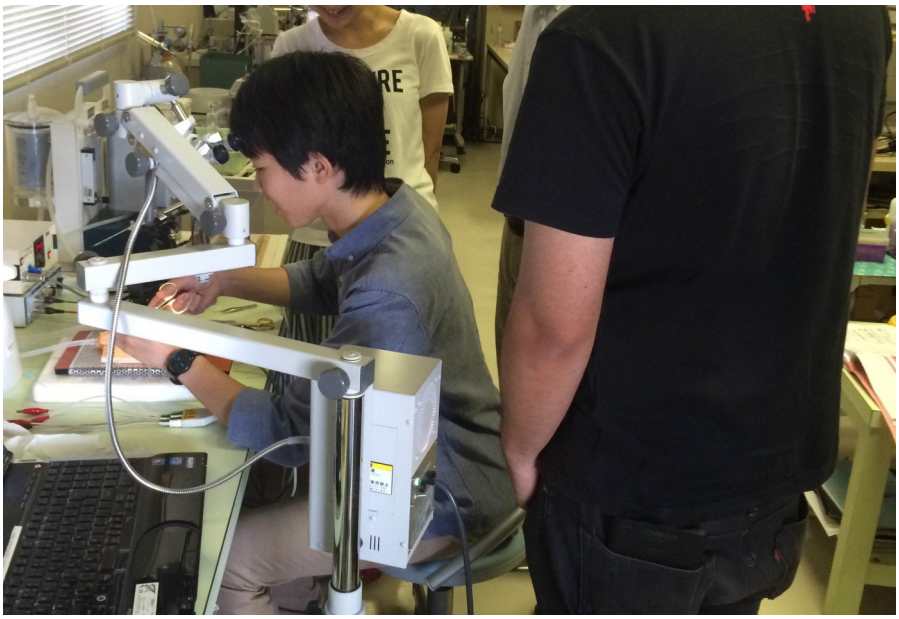
医学部医学科２年　佐々木　亨

研究室体験実習

夏休みの２週間、生理学（統合自律機能部門）教室で研究室体験実習をしました。マウスの心臓を取り出して、その細胞の膜電位を調べました。マウスに麻酔をかけて開胸すると、心臓は人間と同じ形をしており、大動脈や上・下大静脈、冠状動脈などがしっかりありました。心筋を取り出し、細いガラスの棒を細胞に刺して電気刺激を与えると活動電位が見られ、心筋が収縮するのが確認できました。

私がこの実習をしようと思った理由は、活動電位や膜電位というものがよくわからなかったからです。実際に自分で手を動かして、段階をふんでいくなかで理解していけるのではないかと思いました。鷹野先生から、電気生理や実験動物について、器具の扱い方まで一つ一つ丁寧に教えていただき、とても勉強になりました。また、この実習に参加したのは私を含めて3人で、お互いに疑問に感じたことを話し合うことで、より理解が深まりました。

夏休みという期間をどう活用するかはとても大事だと思います。実家に帰ってゆっくりしたり、友人と旅行したり、ドライブしたり、バイトしたり・・・。その中の一つに自発的に勉強する時間を作ることで、気が引き締まり、メリハリのついた充実した夏休みを過ごすことができるのではないでしょうか。



今月の医学時事

新しい専門医制度については、巻内記事をご覧ください。また、平成26年5月に日本専門医機構も発足しています。ご参照ください。

一般社団法人 日本専門医機構
http://www.japan-senmon-i.jp/

厚生省による紹介
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000078756.html

医学教育研究センターのニュースレターに記事を投稿したいと言う方は、是非ご連絡をください。教員、学生問いません。教育に関する事、学校生活に関すること、ボランティア活動に関する事、大学に対する要望など、受け付けております。

医学教育研究センター

今月の学生の声

医学部医学科４年　吉村　優里

こどもクリニックでの実習に参加して

私はこの夏休みの８月４日～８月７日の間、飯塚市にある「こどもクリニックもりた」という病院で実習をさせていただく貴重な機会がありました。そのきっかけは、こどもクリニックもりたの院長でいらっしゃる森田潤先生の大学での講義でした。森田先生は私たち４年の小児科の授業をしてくださって、「希望者はぜ ひ実習しにクリニックへ」と講義中におっしゃってくださいました。私は、将来進みたい科の１つとして小児科を考えていたこともあり、講義が終わった後友人とともに森田先生のところへ行き、実習させていただきたいとお願いさせていただき、今回実習するに至りました。

私は開業医の先生の病院へ実習に行くのが初めてであったため、楽しみな気持ちがある反面、座学で教わったこともまだ定着させることができていない私が実 習に行ってもいいのか、など不安なことも多くありました。そのためせめて実習に行くまでに最低限の小児科に関する知識を身につけていこうと思い、参考書を 少しずつ読んだり、医療ニュースを積極的に読むようにしたりして実習までの期間を過ごしました。

実際に実習へ行ってみると、私が心配していた知識の不足はもちろんのこと、子供やその親御さんとのコミュニケーション方法や、子供に怖がられない手技・ 問診方法、受付業務、乳児検診の現場、薬局での調剤現場、保育園での健康診断などなど… 普段机の上でしか学んでいない私には、想像もできなかった場面に 本当に多く出会いました。クリニックでの診察を見学するだけでなく、４か月検診が行われている会場へ行って先生の後ろで見学させていただいたり、薬局の内 部を見せていただき、実際に軟膏を作る体験をしたりと、実習は私にとって刺激的なものばかりでした。そのなかでも私が一番印象に残っているのは、先生が診 察される前にまず私一人で問診をとる、という体験です。私はもちろん問診をとったことがなかったので戸惑いました。今まで見学させていただいた森田先生の 診察方法を思い出しながら問診させていただきましたが、聞きたいことをどうきけばいいのか・鑑別診断なども思いつくことができず、まるでダメでした。そのあと森田先生が診察している様子を見て、問診にも順序があり、何気なく先生と患者さんがしているように見えていた雑談の中にたくさんの重要な情報が含まれ ていたことに気が付き、目からうろこでした。この体験を通して、私に足りていなかったものは知識だけでないのだということを改めて痛感させられました。

今回の実習は、大学でなんとなく日々を過ごしていただけの私にとって、非常に刺激的でたくさんのことを得ることができ、行ってよかったと心から思えるものになりました。今回実習させていただいた「こどもクリニックもりた」の方々に感謝しつつ、得たものを胸に刻み、これまで以上に勉学に励み５年生での病院実 習に生かしていこうと決意を新たにしました。

新しい専門医制度

これまでの専門医は、「日本○○学会」のような診療科・疾患名・治療法を冠した学会が独自に基準を定め、登録医・認定医・専門医・指導医などの名称で専門医を認定してきた。厚生労働省は、認定基準の統一性、専門医の質の担保、医師と国民の認識の相違、診療科の偏在などの問題を解決するため、中立的な第三者機関が専門医の認定と養成に関する事業を行い、国民の視点に立った新たな専門医制度を構築することにした。

平成26年に設立された日本専門医機構は、専門医の育成・認定と専門医制度の評価に関する事業に加え、専門医の質や分布を把握するためのデータベースを構築することになった。基幹病院(大学病院など)が地域の病院と病院群を作って専門医を育成し、活動実績(経験症例数など)を要件として専門医を認定する。基本領域には総合診療があり、日常的な傷病に対する適切な初期対応と全人的な継続医療を提供することが求められている。

安達　洋祐

サブスペシャリティー領域（17領域）																
リウマチ	小児外科	心臓血管外科	呼吸器外科	消化器外科	神経内科	老年病	感染症	アレルギー	肝臓	腎臓	糖尿病	内分泌代謝	血液	呼吸器	循環器	消化器病

基本領域（19領域）																			
総合診療	リハビリテーション科	形成外科	救急科	臨床検査	病理	麻酔科	放射線科	脳神経外科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	眼科	産婦人科	整形外科	外科	精神科	皮膚科	小児科	内科

新しい専門医制度

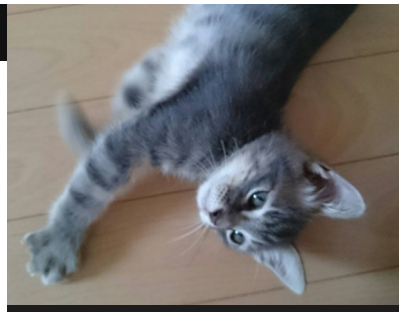
（参考）厚生労働省「専門医の在り方に関する検討会 報告書」

http://www.mhlw.go.jp/stf/shin-gi/2r985200000300ju.html

医学教育研究センターは最先端の技術で学生と教員を繋げます。

編集スタッフより

こんにちは。編集担当の柏木です。医学教育研究センターのニュースレター第五号目です。CSMEサーバの（仮）運用が始まっています。E-Learningシステムや授業用コンテンツの公開ができます。詳しくは（http://csme.asuscomm.com/wp/tools/）をご覧ください。利用に際してのサポートも行います。質問・疑問等ありましたら医学教育研究センターまでお尋ねください。



今月のうちのニャンコ

お問い合わせ先

当ニュースレターついてお気軽にお問い合わせください。　記事も募集しています。

久留米大学医学部 医学教育研究センター　編集担当：柏木　孝仁
〒830-0011 福岡県 久留米市旭町67 TEL: 0942-31-7764 FAX: 0942-31-7765
http://csme.asuscomm.com　E-MAIL: csme@med.kurume-u.ac.jp